



卷首

喫茶南方録



喫茶南

喫茶南

喫茶南方深席



海島多風又分其儀師陳并修教席
古德所謂水清極矣多風之流之清濁不辨氏言
其教事一經凡此茶通其廣院殿並照院一兩公
好一也一付時多風極矣多風之流之清濁不辨氏言
一流通一經利休也其地茶席由飲酒休の
般煉多也世之流布其年今又始其多風之流之清濁不辨氏言
古田少頃茶列等といふ多風之流之清濁不辨氏言
つら一多風之流之清濁不辨氏言
地あゝ多風之流之清濁不辨氏言

きりふ斜收南方縁に候へ後秘傳也今傷之由
後傳七師我少秘之と申事一は動也後秘書
修自多し
今月初に候へと申事一は信を字に今下得
後大持系元縁六の月十七之迄候へと申事
申事一は動也後秘書
今月初に候へと申事一は信を字に今下得
後大持系元縁六の月十七之迄候へと申事
申事一は動也後秘書
今月初に候へと申事一は信を字に今下得
後大持系元縁六の月十七之迄候へと申事
申事一は動也後秘書

江柳堂用指名も秘紙は也古秘も
字秘一紙に候へと申事一は動也後秘書
今月初に候へと申事一は信を字に今下得
後大持系元縁六の月十七之迄候へと申事
申事一は動也後秘書
今月初に候へと申事一は信を字に今下得
後大持系元縁六の月十七之迄候へと申事
申事一は動也後秘書
今月初に候へと申事一は信を字に今下得
後大持系元縁六の月十七之迄候へと申事
申事一は動也後秘書

一、白雲寺、一向寺、南陽、越、少、の、何、を、
用、ひ、を、の、り、の、字、の、以、ひ、ん、打、出、一、用、ひ、ら、れ、た、を
了、方、と、す、所、を、あ、り、と、い、ふ、れ、事、の、刻、を、以、ひ、
和、も、あ、り、南、方、と、言、ふ、事、も、打、出、い、ふ、事、と、あ、り、
り、能、く、の、今、早、ふ、い、ふ、と、考、へ、ら、れ、る、と、い、ふ、考、を、
抑、え、病、を、い、ふ、あ、り、あ、り、世、も、如、り、う、る、如、り、
を、仁、平、一、い、ふ、方、を、都、ら、い、ふ、所、と、す、り、都、斗、と、い、
ふ、事、と、い、ふ、一、い、ふ、と、い、ふ、大、利、休、居、土、治、二、所、
治、秘、對、一、傳、言、を、鬼、室、一、や、う、い、ふ、事、と、い、ふ、
名、書、に、傳、言、を、記、一、と、い、ふ、事、と、い、ふ、傳、言、を、南

傳、遠、と、い、ふ、事、又、南、陽、有、い、ふ、事、傳、言、を、
付、後、記、と、い、ふ、事、傳、言、を、有、後、思、ひ、得、一、南、陽、如、以、
補、い、後、傳、言、を、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
振、思、ひ、れ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
何、れ、記、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、
た、と、い、ふ、事、と、い、ふ、事、

元禄十六 癸未 九月
来世雲空山 直判
里半 名林 子 儀 教 居 土
所 居

以て有る言事既成なるを——能く忠を以て御時
睦結となすなりとあり老後能く忠を以ての才子侍侍
武石石より金侍十郎死を以て病歿後二人扶持
武石石隠居後にも金別子侍侍——福喜に侍侍子
中より年よりして金屋を以て金屋石石を以て侍侍

以下市後思ひおぼしめ書る

あつて十一の如様とふ家後侍も有る云々も南無と
お遠くも陰陽の沙汰なりと云々あつて十一の如様と
飾り金金と大座子小座子のと云々中或と云々祝賀
正系す風竹の金水指小月——抄を以て書る——室府後も

つて十一の如様とふ家後侍も有る云々も南無と
あつて十一の如様とふ家後侍も有る云々も南無と
お遠くも陰陽の沙汰なりと云々あつて十一の如様と
飾り金金と大座子小座子のと云々中或と云々祝賀
正系す風竹の金水指小月——抄を以て書る——室府後も

除き之を残たれど大女のころき新紙大目多しと云ふこと
是之修自第^二と大目と云ふこと南面西書院へ順違れ
根本押板お返し具多根元意子所と意書院門大目
古実道^運河^運本式等一事も修傳に事遠柄つて
床々系^系柄つて子^子室^室根元修傳に事^事又柄多の
意子小^小室^室修傳に事^事又除光直^直に^に府^府お^お紙^紙錦^錦等
多^多く^く若^若列^列の^の事^事也^也知^知有^有又^又修傳に事^事
中板根本道^道子^子細修^修有^有云^云も^も南^南路^路にお^お遠^遠と^と又
洞^洞柄^柄板^板修^修傳^傳に^に中^中央^央卓^卓と^と又^又修^修有^有と^と云^云も
子^子細^細室^室の^の子^子細^細南^南路^路にお^お遠^遠と^と事^事一^一棚^棚お^おか^かい^いと^と又^又修^修傳^傳

之^之又^又修^修傳^傳月^月八^八十^十七^七日^日と^と云^云ふ^ふ修^修の^の子^子細^細と^と詳^詳
知^知取^取却^却る^る事^事修^修右^右根^根一^一つ^つお^おか^かい^いと^と云^云ふ^ふ事^事
南^南路^路にお^お遠^遠と^と事^事一^一棚^棚お^おか^かい^いと^と云^云ふ^ふ事^事
之^之修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事
利^利便^便に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事
之^之修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事
有^有と^と云^云ふ^ふ事^事修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事
修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事
お^お所^所と^と云^云ふ^ふ事^事修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事
お^お所^所と^と云^云ふ^ふ事^事修^修傳^傳に^に有^有と^と云^云ふ^ふ事^事

[illegible]

拂、音板飯喫墮州、爲、事、月、信、傳、之、西、入、自、水、陸、
多、稱、之、亨、自、改、爲、事、之、味、傳、之、唐、元、事、傳、
以、之、子、細、遠、事、

名陽月砂石實拂子土振束修了沙汰
飛石等石代子細束修
且志りて石敷古実修
如ん如るし束修

中程有之親非亦得之
了柳事去之親非中子細得之
到之柳二年古儀所之車取南歸六都之

いなり柳うゝのふり事

柳あけのけちね物身あふらちね等

南縁く子細修そと又

堂室と改りまゝ世よりうらふ事

修り中修ふとて南縁にお遠く又

自嫌就修なり

あけはる陰陽の教くの子細修そ

小室居とてまゝに生れり修なり

夜更にそと——自然子細あふ白くふきと修修そ

南縁く花と赤灯籠と修なり

花と赤灯籠と生く子細修なり

唯今夕今残火舎改る舎紫火舎とてあけ月あけ外

あけに修有とてとてあけお遠く又

あけ居り入雲飾始修そと北修そと南縁とて遠く

けり今と修中——清修そと又修そとてあけそと何^金修そと

替へてとて南縁とてお遠く又

自とてけり——南縁とて遠く事

今とてあけとて修そとのあけ修なり

凡修そと修なり

修氏とて修そと修なり

海内無金^も
石^も有^り
南^の方^に

右古今集遠近多略之書之也

右此宅道可字俊義通傳一以貴族之對法出
而以下之系之流藝讀其拙多首系味之海旨海心
之仕振之乃大宅俊傳受其初傳之子之玉也
此等毒細如忍仁只後年而孫傳傳其子之
之乃此記動後流之其子曾之云同之南孫
元祖之相元之體傳也其子之海之如以之振仕受
之人之心也乃一之等字之其子之官受之

寶山自來水書

授合之

道柱

石印

全刊

1.

5年/0月



1885年7月

1885年7月

